

4 女性医師を取り巻く諸問題 — 教室としてサポートできること —

富田 雅俊

新潟大学大学院医歯学総合研究科
産婦人科 総括医長

Working as Women Doctors — The Support by Our Medical Department —

Masatoshi TOMITA

Niigata University Graduate School of Medical and Dental Science
Department of Obstetrics and Gynecology

キーワード：産婦人科，女性医師，産休，育休

新潟大学の産科婦人科学教室では現在臨床に携わっている教室員は30名であり、うち9名が女性で、9名全員が臨床経験10年以内のいわゆる若手医師です。産婦人科医を志す医師は年々減少の一途ではありますが、最近では女性医師の増加が顕著であり、日本産科婦人科学会の新入会員数では、2000年を境に男女比が逆転し、2006年では男性129人に対し女性229人と、実に2/3が女性医師となっております。

産婦人科に女性が増加した理由としては、

- 「女性診療科」としての女性のプライマリドクターとしての女性医師のニーズ
 - 妊娠、分娩など母性への関心
 - 外科系の中では比較的手術時間が短く、分娩のぞけば肉体的負担が軽い
- 等が考えられます。このため学会としても2006年に女性医師の就労状況を調査しており、女性医師は卒後9年目から13年目にかけて分娩を取り扱う医師が減少すること、また、院内保育所、時

間外保育、病児保育があると産休、育休からの復帰がなされやすいこと、などがわかっております。

こうしたなかで、われわれは「出産、育児等があってもなんとかりタイアせずに産婦人科医を続けてもらう」ことを目標に対策をとってまいりました。日頃教室としては、

- 妊娠中あるいは育児中は当直免除
 - アルバイトは産泊など時間外のものではなく、癌検診などできるだけ平日日中のものを斡旋
 - ただし医員同士ではアルバイトによる収入格差ができるだけ少なくなるように配慮
 - 保育所の時間に合わせた始業時刻の設定
 - 研修病院としての赴任先を夫の赴任先と同じか近隣とするなどの人事面での調整
- などを行っております。必ずしもすべてが有効に機能しているわけではありませんが、教室の他のメンバーの協力も得られ、一定の効果はあがっているものと思います。

臨床研修を一通り終え、各科の専門分野への道

Reprint requests to: Masatoshi TOMITA
Department of Obstetrics and Gynecology
Shibata Prefectural Hospital
1-2-8 Honcho,
Shibata 957-8588 Japan

別刷請求先：〒957-8588 新発田市本町1-2-8
新潟県立新発田病院産婦人科 富田 雅俊

を歩み始めてまもない時期に産休・育休などで1年も現場を離れてしまうと、復帰が難しいといったケースをよくききます。臨床では「患者を診る」ことによりセンス・自信が養われ、しばらく「患者を診ない」となかなか取り戻すまでに時間がかかります。数年臨床をやった後ならまだしも、スタートしたばかりで「患者を診ない」とそのままリタイアということになりかねません。

このため、われわれは育休・産休は当然の権利として行使していただきますが、育児を開始して少しでも落ち着いてきたら、育休中であっても午前中の外来など、できる範囲で週1・2回でもかまわないので「患者を診る」ことを勧めております。休職中にもできるだけ患者と関わる機会を持つことにより、せっかく医師・産婦人科医になっ

たのに休職からそのままリタイアするというケースを少しでも減らせるのではないかと考えております。

既婚女性医師の夫のほとんどは同年代の若手の医師であり、多忙な毎日を送っています。男女平等とはいいながらもどうしても育児は女性側のウエートが多くなるため、子供を持つ女性医師は医師としての研鑽の忙しさに加え育児と、まさに殺人的忙しさの中で仕事をこなしている状態です。そんな中で夫側の人事などについては女性側の都合などはほとんど考慮されていないのが現状かと思われまふ。男性医師も、パートナーの研修に配慮した勤務希望、また医局側も女性パートナーの研修に配慮されるような体制をつくっていけるよう、各科で協力ができれば、と考えております。

5 病院長の立場からサポートできること

布施 克也

新潟県立松代病院

The Director of a Hospital Could Improve Working Conditions for Female Physicians

Katsuya FUSE

Niigata Prefectural Matsudai Hospital

要 旨

女性医師の増加と、出産・育児時期の労働制限による医療サプライの低下リスクは日本だけの問題ではない。本邦でも新卒医師の3人に1人が女性であり、近い将来「三割が女性医師・医師の3%は育休中」を前提に勤務体制を整備していかなければならない。新潟県立病院でも全医師328人のなかで女性医師は43人であったが、40歳以下の群では139人中31人とすでに女性が22%を占めていた。現在の深刻な医師不足、ことに勤務医不足への対策としても、女性医師が安心して妊娠・出産・育児できる就労環境を整備することが不可欠である。支援策として

Reprint requests to: Katsuya FUSE
Niigata Prefectural Matsudai Hospital
3592-2 Matsudai,
Tokamachi 942-1526 Japan

別刷請求先: 〒942-1526 十日町市松代 3592-2
新潟県立松代病院 布施 克也